



山岡けんじ

福知山線事故から8年 職場から安全確立の闘いを推し進めよう!

福知山線脱線事故から今日でちょうど8年を迎えました。JRはもとより、鉄道で働く労働者は決して忘れることができない大惨事です。

この事故以来、JR総連傘下の各単組は「責任追及から原因究明」の信念を貫き通し、職場・地域から安全確立の闘いを推し進めてきました。言うまでもなく、この事故の背後要因は、運行優先・利益優先の企業体質と、日勤教育に象徴される異常な社員管理です。私たちはこの間、この悪しき企業体質を改善するために闘ってきました。

しかし、8年が経過しても、安全第一の企業風土は確立されていません。社員への事故の責任転嫁や日勤教育も撤廃されていません。それは、会社を支える養殖組合の存在があるからです。事故以来、養殖組合は「日勤教育は必要だ」と主張し続け、その管理者たる組合員が日勤教育の先兵となっているのです。

4月18日、「ひかり」515号の歯車箱破損事故が発生しました。歯車箱の破片に車輪が乗り上げれば脱線という大惨事になりかねない重大事故です。1月には、会社から「出勤遅延未遂」なるものを追及され、駅社員が自殺しました。車両所職場では、ミスをした社員に対する「教育」の強化と見極め試験の導入が強行されるなど、まさに時代に逆行しています。福知山線脱線事故の教訓をことごとく否定しているのです。

私たちは、福知山線脱線事故を風化させることなく、真の安全確立の闘いを職場から推し進めていかなければなりません。本日、JR西労の仲間は、事故の経営責任追及!「営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着」の不安全な企業体質を一新する集会を開催しています。共に連帯して、闘っていこうではありませんか。



「ひかり」515号の歯車箱破損

日勤教育・見極め試験を撤廃せよ!